

単収 200kg 以上、2 等級以上を目指して 適期に中耕・培土、排水対策、追肥を実施！

- 適期に2回の中耕・培土と畝間・周囲明渠の連結による湿害の防止
- 生育不良ほ場や低地力ほ場での追肥による生育量の確保
- 中耕・培土と除草剤散布の体系処理による帰化アサガオ類の徹底防除

○新潟地方気象台の1か月予報（5月21日発表）では、降水量は「平年並または多い」予報です。晴れの日を選び、すみやかに作業を行いましょう。

1 中耕・培土

(1) 中耕・培土の効果

- ① 雑草防除……雑草を土に埋没させる
- ② 倒伏防止……不定根で茎基部を支える
- ③ 根圏の改善…通気性の改善・根粒活性の増大
- ④ 根系の発達…不定根の発生による生育促進
- ⑤ 湿害防止……表面排水の促進

収量・品質の向上のため
適期に2回実施しましょう



(2) 作業のポイント

○実施時期・位置のめやす（図1）

- 1回目：第2本葉展開期頃（播種後20～25日頃） → 子葉節の高さまで
※梅雨時期にあたるため、本葉が2枚になったら直ちに実施する。
- 2回目：1回目の2週間後頃（播種後35～40日頃） → 初生葉節の高さまで
※開花始期（7月20日頃）までに終わる（遅れると生育抑制に）。

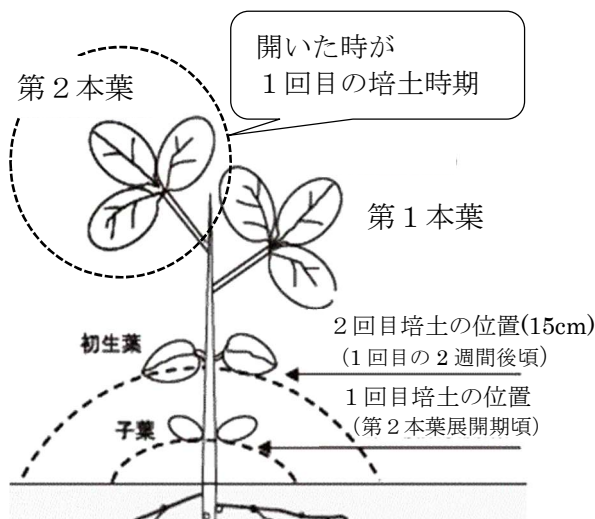


図1 培土の位置のめやす

○作業の留意点

- ① 雑草の発生が早い場合や多い場合
1回目作業が遅くならないよう留意し、必要により培土回数を増やす。
- ② 出芽不揃いのほ場の場合
生育良好な部分に合わせた時期で作業し、培土高は低めにする。
- ③ 茎元の土寄せ
株元がへこむと、培土の効果が発揮されない上、株元に水が溜まり病害を招く恐れもあるので、株元までしっかりと覆うように培土する。

2 排水対策

- 中耕・培土後の溝は必ず周囲明渠（排水溝）に連結する。
- 周囲明渠は確実に排水路につなげ、降雨後の表面水が速やかに排水されるようにする。
- 本格的な梅雨に入る前に、排水溝の崩れを修繕し、地下水位の高いほ場や降雨が続く場合は暗渠栓を開放する。

3 追肥

- 湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られたら、排水を促し、葉が乾いた状態で、速効性肥料を窒素成分で10a当たり2～3kg追肥し、培土する。
- 低地力が原因で収量が低い(めやす：実収 200kg/10 a 以下)ほ場では、緩効性肥料（シグモイド型被覆尿素 60 日タイプ）を、2回目の中耕・培土前に窒素成分で10a当たり6～8kg施用する。

4 雑草防除（帰化アサガオ類の防除）

- 帰化アサガオ類の発生が年々増えているおり、適切な防除を行わないと数年でほ場全体に蔓延するため、確認されたほ場では対策を徹底する。
- 完全防除には除草剤と中耕・培土等を組み合わせた体系防除が必須である。
まん延防止のために、農道や畦畔を含めた雑草管理を徹底し種子の増殖を防ぐ。
- 帰化アサガオ類は春から秋まで長期にわたって出芽し、出芽後2～4週間でつる化する。つる化すると防除が限りなく困難になるので、播種後から大豆開花期までの除草剤を組合わせた体系防除を行う。

帰化アサガオを中心とした難防除雑草除草体系

	大豆播種前	大豆播種後	出芽揃期～ 初生葉展開期	大豆2～3葉期	大豆4～5葉期
慣行 除草体系	-	土壌処理 除草剤 (※)	-	-	大豆バサグラン液剤 +イネ科用除草剤
帰化アサガ オ発生ほ場	トレファノ サイド乳剤 (土壌混和)		パワーガイザ ー液剤	大豆バサグラン 液剤	イネ科用除草剤

※帰化アサガオに効果のある土壌処理除草剤：サターンバアロ粒剤、コダール S 水和剤、フルミオ WDG 等

- 帰化アサガオ類以外の雑草でも、降雨等で作業が遅れ、中耕・培土だけでは十分な除草効果が得られない場合は、生育期に適用のある除草剤を散布する。

5 病虫害防除

- アブラムシ類は褐斑粒発生の原因となるので、発生初期に殺虫剤を散布する。

**農薬の使用にあたっては、ラベルに記載されている使用基準や注意事項・使用方法をよく読み、内容を遵守して使用しましょう。
近隣の田畑に飛散しないように十分注意してください。**